平成 25 年度スローガン『　Try　to　Run　』

たいよう

9月号

NPO静岡県青年団連絡協議会
広報紙 たいよう　第57巻-3号
平成25年9月30日発行
発行責任者　　草野　心路
編集・発行　　組織部
〒420-0068静岡市葵区田町1-70-1
TEL　054-254-2006
E-mail　kendan@youthnet.or.jp

澄みきった秋空の元、第59回静岡県青年祭閉幕

7 月 21 日（土）の体育部門ボウリング競技を皮切りに始まった第 59 回静岡県青年祭は、9 月 8 日（日）の文化芸能部門、9 月 22 日（日）の交流種目運動会を経て、無事に閉会しました。

文化芸能部門は、袋井市のメロープラザで開催しました。地域の方を巻き込めるように、袋井市内の班内回覧で告知をしたことや地元のゆるキャラ『フッピー』に来てもらったこともあり、会場は大いに盛り上がりました。地域の団体の出演はなかったものの、加盟団が中心となって、舞台パフォーマンス及び活動発表を行い、様々なフィールドで日頃の成果を存分に発揮しました。各団の特色を生かして取り組んだことは、大会テーマの『伝える～自分らしさ 120%～』を意識した結果だったと思います。

カラオケのど自慢の様子

司会者とフッピーによるオープニング

裏で打ち合わせする運営協力員

交流種目は、島田市陸上競技場で行いました。天候は、昨年の台風とは打って変わって雲ひとつない青空の元で開催しました。毎年、青年団以外の参加者にも楽しんでもらえるように、オリジナル種目を考え、チームワークを見せる種目、絵心を見せる種目など様々な競技で自分らしさを出せる交流種目となりました。

青年大賞は、日頃から地域に根差した活動を展開し、また、自主事業である静岡市青年の船では、定員以上の参加者を集めた静岡市青年団連絡協議会が受賞しました。

綱引きの様子

借り人と共にゴールへ

受賞した静岡市青年団連絡協議会

本大会である全国青年大会は、11 月に開催されます。静岡県大会での予選を通過した仲間たちが全国の舞台で奮闘してくれるはずです。現地で応援できない方も、静岡県からエールを送ってください。今年もオレンジ旋風を巻き起こします。

第 59 回静岡県青年祭大会委員長　中本　将之

平成 25 年度スローガン『　Try　to　Run　』

第40回静岡市青年の船

8 月 13 日（火）～17 日（土）の 5 日間、静岡市青年団連絡協議会では第 40 回静岡市青年の船を開催しました。

今回は、多くの人と出会い、仲間と共に過ごす中で、様々な考え方を知り、自分を見つめ直してもらうことを目的とし、『未来への階段～新しい自分を見つけよう～』をメインテーマにしました。最初は緊張も見られる研修生もいましたが、沖縄県の国際通り散策や与論島（鹿児島県）でのサイクリングなど、渡航地先での研修を通して気軽に話し合える仲となりました。

関係者集合写真

船内研修の講話では、話すことの大切さや出会いによって得る事があるということを学ぶことで、なりたい自分に向かっていく姿勢を見ることができました。研修生の中には涙を流しながら思いを伝える姿が見られました。

研修生には、この船で得た経験を存分に活かし、私生活や地域活動で活かして欲しいです。また、40 年続いてきた青年の船事業を次代へ繋げていきます。

静岡市青年団連絡協議会会長兼第 40 回静岡市青年の船実行委員長　山梨　剛

青年問題研究集会とは・・・

今年度で 56 回目を迎える青年問題研究集会。字を見てわかるように、漢字が連なっていて堅苦しいイメージを覚える方も多いのではないかと思います。そこで、KATARI 場 2014 という別名をつけて親しみやすくなっています。

青年問題研究集会とは、青年が抱えている特有の問題・課題・悩みを同年代の人たちと語り合う中で、新たな視点・意見・知見を得ることや自分の心の整理をできる場です。

語り合う内容は様々ありますが、自分の一年間を振り返る中で、これはできなかったと反省すること、これは良くできたと自分を褒めること、来年はこれができるようになりたいと気持ちを奮い立たせるようなことなど、なんでも話して良い場所です。

自分の事を話すには、自分の事を知らなければできません。今後、何事にも自信を持って前向きに考えられる人になるために、そして、自分の事をさらに好きになるために同年代の仲間たちと語り合ってみませんか。

組織部

自分の地域から「平和」を考える

「原水爆の被害者は、私を最後に。」という言葉を残して亡くなった久保山愛吉氏。

彼は 1954 年に第五福竜丸の無線長で、人類最初の水爆実験の犠牲者の一人である。

久保山愛吉氏をはじめ、故人となった第五福竜丸乗組員の方々の冥福を祈り、毎年 9 月 23 日に追悼行動が行われている。今年は静岡市葵区にある静岡労政会館で『9.23 焼津（静岡）のつどい』が開催された。

磯部元樹さん

集いで上映された「放射線を浴びた X 年後」では、1954 年ビキニ事件で被ばくした人たちの数年に渡る苦難が描かれていた。参加した磐田市在住の磯部元樹さんは、ビキニデー※の運動について、「長崎や広島の人たちは地元意識を持って核兵器廃絶運動に懸命に活動している。静岡も核兵器の被害者のため、地元意識を持ち、より多くの人たちと共に活動していきたい。」と強く訴えている。

2014 年の 3 月 1 日には第五福竜丸が被ばくしてから 60 年目を迎える。そのビキニデーを迎えるにあたり、地元の静岡県民が核兵器の悲惨さについて学ばなくてはならない。

※ビキニデー　毎年 3 月 1 日を 3・1 ビキニデーと称している

組織部

編集後記

大盛況で幕を閉じた第 59 回静岡県青年祭の次には、第 56 回静岡県青年問題研究集会があります。また、静岡県に関わりのある 1954 年 9 月 23 日の出来事を、自分たちから多くの方々に伝えていくためにも、『第五福竜丸』をきっかけに、平和とは何か考えてみてください。